

年間千体以上が火葬できず、他斎場を利用

ウイングホール 柏斎場

10月4日読売で流山・柏・我孫子の3市で運営するウイングホール柏斎場について、「火葬待ち」深刻最長17日」「新斎場不可欠」と報道。市議会決算審査特別委員会では、おだぎりたかし市議が、実態の共有化を求め質疑していました。

深刻な実態 明らか

おだぎり市議の質疑に対し、「1日の対応件数は、R4年10月1日までが1日21件、2日から24件。コロナ禍の時間外対応もあり、R4年度稼働率は100.9%」「年間対応件数6765件に対し、3市の死者数はR4年度7874人となり、1109人は当該施設以外で対応している」と回答。また「将来の予測では、2025年7988人、35年9327件」「R4年度の「火葬待ち」は平均6日、最大15日」と答弁しました。市議会で詳細な実態を回答するのは初めてのことです。過去、「火葬までの日数がかかる」「費用は高くても、他市の斎場を利用した」との市民の声が市議会でも紹介

されるものの、「十分対応できている」「日や時間を選ばなければ対応可能」との見解が繰り返されてきました。

ウイングホール柏斎場について
H7年11月から稼働し、施設稼働から20年以上が経過。
施設の大規模修繕や増加する火葬需要に対応するため、H29年2月にウイングホール柏斎場整備等基本計画を策定。火葬炉は9基から12基（3基増設）となり、現在既設の9基についても順次新型炉への入替えを進め、令和3年度には入替えが終了。

「抜本的な対策を」「情報共有を」 全会派が一致して要望

おだぎり市議の質疑をキッカケに、「R5年度決算審査特別委員会指摘要望事項（議会全体の合意事項分）」「ウイングホール柏斎場については、火葬における待ち日数が年々伸びていることから、市民ニーズや負担軽減策を図るための抜本的な対策を講じられたい。また市議会や市民との情報共有を進められたい。」との項目が加わりました。

政策の違いや政策的優先度が異なる下でも、決算審査特別委員会に参加する全会派が合意した事項にウイングホール柏斎場が位置付けられたのは初めてのことだ。

超高齢化のさらなる進展と、「多死社会」と言われる下で、情報を共有し、検討をスタートさせる必要があるのではないだろうか。





新川耕地東側 根方道路
(常磐高速道下)

歩行者の安全対策 検討約束

「何度も怖い思いをした」

物流センターで働く労働者から、改善要望が寄せられたおだぎりたかし市議は、現地調査後、決算審査特別委員会の質疑で取り上げました。

遠藤康弘道路建設課長は「歩行者の安全面での問い合わせもあり、安全対策が課題」とし、「検討する」と回答しました。また、この質疑をキッカケに、「R5年度決算審査特別委員会指摘要望事項（議会全体の合意事項分）」にも初めて明記されました。

おだぎり市議は、「狭い道路なのに、北上する車両、南下する車両、ぐりーんバス、トラックがひっきりなしで通り、歩行者もドライバーも安全面で大きな課題があり、早急な対応が必要です」と話しています。



日本共産党 流山市議会議員

おだぎりたかし

流山民報（23.10.4）小田桐090-8567-8858